

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成30年3月8日(2018.3.8)

【公表番号】特表2016-504185(P2016-504185A)

【公表日】平成28年2月12日(2016.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2016-010

【出願番号】特願2015-545455(P2015-545455)

【国際特許分類】

C 0 2 F 3/12 (2006.01)

C 0 2 F 11/12 (2006.01)

C 0 2 F 1/44 (2006.01)

C 0 2 F 1/38 (2006.01)

C 0 2 F 3/34 (2006.01)

【F I】

C 0 2 F 3/12 Z A B B

C 0 2 F 11/12 Z

C 0 2 F 1/44 F

C 0 2 F 1/38

C 0 2 F 3/34 1 0 1 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年1月18日(2018.1.18)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 6】

遠心分離は、デカンタ式遠心分離機を用いて行われる場合が多く、この場合、遠心分離機の毎分回転数（例えば、500ないし5000rpmの範囲）が増加することにより、重力が増加し、それによって沈降速度が増加する。従って、重量選別装置11がボール部、スクロール部、ポンド部を有する遠心分離機を含む場合、その遠心分離機は、重量選別装置11における液固混合物を、例えば沈降タンク内で発生する可能性がある重力に対して何度も露呈することが可能である。遠心分離機におけるボールと遠心分離機スクロールとの間の非常に小さい差分rpm（例えば、通常は1ないし10rpmの範囲）を用いて、遠心分離機のオーバフローポンド部において排出される、より沈降性の低い固体から、より沈降性の高い固体を分離することが可能である。従って、水面積負荷率、遠心分離機の回転速度、ボール／スクロール差分rpmを制御して、これらの所定閾値間速度を管理することにより、より大きく且つより多くの、またはそのいずれかの高密度の固体の選別を制御することが可能になる。例えば、水面積負荷率またはボール／スクロール差分rpmが増加すると、より大きく且つより多くの、またはそのいずれかの高密度の固体の選別が改良可能となり、一方、これらの速度が減少すると、重量測定分離に対して利用可能な滞留時間の延長を助長する場合があります、均衡の取れた速度を用いて、処理を管理することが可能となる。ポンド部における固体が廃棄され、より重いスクロールされた固体が保留され、処理装置6に返送可能である。